



January 2011 No.298-299

1月号の1枚：杉並区の中学生の間伐体験を指導

[巻頭言] NPOとは？、社会的役割は？、その構成要件は？・・・

こんなことを自問自答する
事がある

NPOとは？：

「Non Profit Organization：非営利組織」の略だが意味を正確に表すために「Civilian Non Profit Organization：CNPO：民間非営利組織」と言うのはどうだろうか。

「民間非営利組織」とは、行政にも企業や特定の団体支配に属さず、利益があっても構成員に分配せず、それを公共的・公益的社会的役割を果たすための費用に充てる団体と言えるだろう。

社会的役割は？：

行政（政府・自治体等）がある公共的・公益的・社会的役割提供を行おうとすれば、税金を納める広く多くの人々の理解・理解が必要となる。営利事業（企業・会社）の場合は、利益が目的で配当が伴うから原則、無償のサービス提供はできない。

我々 CNPO：民間非営利組織の特徴は、自由で柔軟な発想と迅速な行動ができる。善意無償で自発的に行政、企業・団体が扱いにくいニーズ・要求に対応するための活動を行う。

構成要件は？：

強い情熱と使命感を以て、公共的・公益的・社会的役割を果たす事が求められる。対立する意見を受け入れる“寛容さ”と同時に“冷徹な現実洞察力”を持っている。世論の共感を呼ぶだけの説得力と実践力を持っている。

*マズローの言う「第五段階目の欲求：理想実現の欲求」を充足する為には、終わりのない胃の痛くなる緊張感も強いられる。

石村 黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

小原本陣の森

1月は定例活動を行いません。

1月16日（第三日曜日）：

若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：400円



2011.01

[定例活動]小原本陣の森

12月5日（第一日曜日）

今回の活動はForestNova☆から3人、玉川大学の学生4人の計7人が参加しました。活動内容は、林道沿いの土留めと、拠点の片付けを行いました。

林道沿いの土留めは、すでに崩れてしまっている所は土砂を掘り返し、間伐してあった長さ3-4メートルほどの材を運び、これ以上林道に土砂が流れてこないようにしました。

雨により湿った土砂は重く、スコップや鍬を使い掘り返しました。また材運びでは、参加者全員が協力し、引っ張りました。最終的になんと200メートルも土留めを行うことができました。

拠点の片付けは、朽ち始めてしまっている木を退かし、新しく丸太を組みベンチとテーブルを松尾さんの指導のもと設置しました。

テーブルはチェーンソーを使い、直径40から50センチある材を半割にして作ります。太い材を半割にするには何往復もチェーンソー入れなければなりませんが、なんとかテーブルをつくることができ、モノづくりの楽しさを再確認しました。

活動後は先月に続き、小原の山の地主さんである小林元校長先生のお宅へお邪魔させていただきました。小林さんの奥さんが作る、ヤーコンなどのおいしい手作り料理を頂きながら、この日1日の活動を振り返り、今後の展望などを話し、これからの活動がより楽しみになりました。

今回の活動は、今までの小原の活動の中でも大変な1日でしたが、参加者全員で協力して林道と拠点をきれいにすることができたのでとてもよかったです。苦勞して作業した結果を形として見る事ができ、今後の活動もより頑張ろうと思えました。これからもよろしくお願いします。今回の報告は以上です。

植木 聡 (Forest Nova☆)



簡易製材を行ったテーブル（上）
作業を行った林道（作業前左、後右）



お花畑班は、高枝切を使って梅の木の剪定作業を行いました。

[定例活動]若柳嵐山の森

12月19日（第三日曜日）

フレッシュ中学生・活躍！

暖かい日が続いている今年の冬、12月最後を飾ってくれた中学生団体の初参加！

この日の参加者は、学生連合フォレストノバ18名、杉並区の中学生と引率の先生で10名、生命の森宣言5名、一般参加14名。計48名

小・高・大学と沢山の若者の参加の有る中、あとは中学生だと思っていたら、又、やってくれますね！杉並区の中学に赴任された宮村先生（元望星高校教諭）が中学生を大勢連れて来てくれた。

初参加にして中学生は「間伐」に取り組む。指導員も大勢。継続して学生を指導の東海大・杉山教授、弟子の宮坂学生、望星高OBの阿部君。宮村先生と森のベテラン川田・内野会員の見守る中で大木にノコギリを入れ、ロープで引っ張りながら倒す。感想は・・・「手が疲れた」、「森は楽しい！」と、ここの森のすばらしさを感じて活動に参加してくれたら、ますます学生の輪が広がり、森活動も大きくなるなあ～、宮村先生有難う！

一方、ForestNovaも今日は、沢山の大学からの参加で活気つき、重い丸太運びも楽しげな大学生たちでした。生命の森宣言グループには、ベテラン小林・石井会員も加わりブ口並みの間伐作業。何んと8本も伐倒、そして丸太運びも声を掛け合って午前中の作業でも体力消耗する程の張り切りすぎ・杉?!。重い材を引きずり・引き上げ運ぶ、積み上げられた材も壮観!。見事でした木工班は、相模湖福祉協議会から受注した「いたわりベンチ;20台」の納品完了報告。

今年最後の作業日と言う事で終礼時の締め挨拶では、[1]FSC2期6年目の審査をクリア、[2]甲州古道プロジェクトのまとめた報告書が国立・国会図書館の蔵書になった事、[3]市民団体NPOが取り組む「小原本陣の森:林地団地化・集約施業」が社会の注目を集め始めた事、[4]内閣府・経済調査会の月間報告書に連載で当会活動が報告された事、などが披露された。



帰路は、何時もお世話になる駅前カドヤ食堂の忘年会。自称ベンチャーズバンドも盛り上がり、楽しい一年のラスト日に酔いました。

伊藤 小夜子 (本会、会員)

[報告1] 相模原市 森林ビジョン報告会

12月5日(日)

津久井四町合併前の相模原市は、森林の無い都市だったために森林地区津久井と合併後の相模原市が策定した“森林ビジョン”は、白紙に絵を描いたようなスッキリと分かり易い「市民と共に考える目線」で構成されており納得のできる内容になっていました。

即ち、キャッチコピーは“知って、使って、身近になる・・・森林”、当シンポジウムのパネラーは、森林組合、素材生産者、製材業者、市民団体(NPO)の四団体でした。市民団体として、当会・緑のダムから石村が出席しました。

当会の発言内容は、相模原市は、森林資源と大都市消費地を繋ぐ地政的・地理的特性を生かす「内陸・グリーンハブ都市」になり、日本の森林・林業を再生するモデルになれ。

相模原の森林保全・再生は「環境・経済・社会、の調和をガイドラインとする“国際FSC認証林“登録”を目指せ。まずは、「相模原市有林+財産区」で取りくめば良い。

森林は、特定の専門家だけの課題ではない。全ての相模原市民を始め全ての人々の協働があつてこそ。

「1人の専門家だけでなく我われ99人の意思と協働で・・・」。

*当会は、小規模多数の私有林地主さんの森を預かって、将来に希望の持てる「団地化・集約施業」をやっているが、“希望”があれば森林放棄・荒廃と言う問題は起こらない。

森林資源・樹木は、建材・パルプ利用だけでなく木質バイオマスを原料としたBTL(液体合成燃料)、リグニン他、[先端的環境産業創出]の可能性が大だ。森林・林業には洋々たる未来が開けている。

欧州特にドイツでは林業は、国内総生産高の業界1位、年間売上1.2兆円・従業者数132万人を得ているが、森林国日本の森林・林業関係者は4.8万人にしか過ぎない。

相模川流でも、外国資本が日本の森林資源買収を画策している。水源地・相模原の森林ビジョン策定には、このような動向への対策も必要だ。

NPOがこんな事が自由に言える開かれた公聴会でした。後日、相模原市とは別個に「もう少し話がしたい」と合意しました。当会が何等かのお役に立てれるならと、楽しみな相模原市です。

石村 黄仁 (本会、代表理事)

生命の森宣言の森から (上)
ForestNovaによる間伐 (下左)
中学生が行った間伐材の集材 (下右)

[報告2]緑のダム湘南の森

12月11日(金)

この日は浅間山付近で作業を行いました。下草刈り組と伐採組に分かれての作業です。私は、伐採組に入って、枯れて危険になっている木を除伐しました。久方ぶりのチェーンソー、エンジンをかけるのに一苦労しましたが、後は順調に作業が進みました。除伐対象は主に桜の老木で、伐採した後は、玉切りにして目立たないところに集積しました。下草刈りは、主にササとアオキが相手、あれほど苦戦した雑草類は殆ど枯れてしまいました。

11月27日(土)

この日も浅間山付近で下草刈りを行いました。作業前に久方ぶりに参加された和田さんに、手鎌の使い方と、鎌の刃の研ぎ方をレクチャーしてもらいました。これまでこういうインストラクションなしに、見よう見まねで使っていたことを反省、原点に戻る必要を痛感しました。特に刃の研ぎに至っては、砥石は準備してあるのに、一度も使ったことがないというお粗末さ!!大反省です。懸案のタデアイの種子の採取も行い、沢山の種を集めることが出来ました。



タデアイの種子

この日は早上がりをして、早目の忘年会をすることになっており、参加者はクルマに分乗して会場の伊豆・宇佐美温泉に向

かいました。

なお、待望のガイドマップは24日に2,000部が完成、来年3月に公表の上で配布を開始する予定で、平塚市と調整中です。

佐藤 憲隆(緑のダム湘南の森)

[報告3]中学生が事務局にてインタビュー

11月11日(木)

藤沢市立村岡中学校から生徒5名が世田谷区の事務所に来訪しました。

来訪の目的、総合学習テーマに「社会貢献をしている人取材しよう」と遠く藤沢から中2生徒が5名訪ねてきた。狙いは「自分の生き方を考える場・探し」。

子供を取り巻く環境が息苦しくなっている昨今の教育現場で、学校側のこのような勇気ある取り組みは評価できると思う。中身は、①自分を自覚する力、②課題を定め調べる力、③交渉力、④行動力、⑤臨機応変に動く力、⑥重要な点を見定め、伝える力を身につける。そして、⑦中学生でも社会貢献できる方法を探すと云う事であった。この線に沿って当会の活動を可能な限り分かり易く話した。

生徒たちは、明るく礼儀正しい態度で終始しており、村岡中学のレベルの高さを感じられた。生徒たちは、既に夫々の生き方を見定めかかっている印象を受けた。チョット驚いたのは、面会を申し入れたNPOの中で「子供を相手にしている暇はない」を断られるケースが、まああるそうだ。将来を担ってくれる子どもたちに対して失礼な、大人の心の荒唐を感じた。

石村 黄仁(本会、代表理事)

[報告4]中学生による森林体験、生徒の感想から

12月19日(日)

12月の嵐山定例活動に中学生の森林体験を実施しました。間伐、その材の搬出も行いました。参加した生徒の感想を紹介します。

「率直に感じたことは、何故かとても楽しかったです。その理由は分からないけど、木を切る前は陽が当たっておらず、暗かったのに一本切っただけで陽が入るようになり、少し明るくなりました。そういう驚きにより、楽しいと感じたのかなぁと思いました。私一人の力でも環境に役立てるんだなぁと思いました。」(中3・女子)「私はあまりこういう自然保護活動には参加した事がなく、森の木を伐ったり運んだりであれだけ時間が掛かるんだなぁ、と思いました。生きていた木は枯れてしまっても凛と立っていて、伐っても運ぶ時にすごく重かったのですべての自然に命があるのだと思いました。私達はのうのうと都会で生きてきましたが、自然の中に入り木や草は一生懸命に生きていて私たちが暮らす為に素晴らしい自然を壊しても良いのか。様々なことを自然に教えられました。」(中3・男子)

受験を間近に控えながらもよく参加してくれたと思います。今後も参加してくれるということですので、卒業後も中学生の指導ができる高校生に育ててもらいたいと思います。今後はこの活動は「なみすけの森づくり」として発展させようと考えています。なみすけは杉並区のマスコットキャラクターです。さらに杉並の中学生に範囲を広げ、中学生によるカーボンオフセットなどイメージだけは膨らんでいます。

宮村 連理(本会、理事)

[報告5]桂北小学校2年生 課外授業報告

11月29日(月)

桂北小学校での課外授業も3回目となりました。

今回2年生たちには嵐山の地図を渡し、いろいろな場所にあるチェックポイントを回ってもらいました。チェックポイントでは水源を見たり、落ち葉で遊んだり、砂利と土が入ったペットボトルに水を流し入れて違いを観察したり、秋の実りを探したりしました。それぞれ、雨が土の中を通って川になること、落ち葉で覆われていると土が雨から守られること、土には水を溜める力があること、秋にはたくさん実や種ができていて、これから冬を越す生き物たちの大切な食べ物になっていることを知ってもらいました。また、森を回っているときにネズミの穴やイノシシの足跡、クモの巣など、たくさんの生き物の痕跡も発見することができました。2年生たちはとても楽しそうに森の中で観察をしてくれますし、積極的に考えて発言をする子が多いです。土に水をためる力があると知った時に、「だから雨が降っていない時にも川に水があるん



だ!!」と普段あまり発言しない子が叫んでいたのが印象的でした。

終わりに、今日何を行って何を学んだのかまとめをし、学んだことを左の写真のように絵の中に書いてもらいました。山に雨が降り、水は土の中をゆっくり通って川になります。その土は森が守っています。川は相模湖に流れていき、私たちが使う水になっていることは10月の授業の川遊びで学んでもらいました。3回の授業を通して、地域の自然と自分の生活とが繋がっていると感じてもらえたのではないかと思います。

全部の授業を終えた2年生たちに、「さがみこたんけんたい」と書かれた間伐材のメダルと賞状を贈りました。これから、子どもたちにもっと地域の自然の中で遊んでもらいたいというForest Novaからの思いです。

また、今回は1年生にも授業を行わせていただきました。1年生たちも2年生に負けないくらい、森の中で楽しそうに遊んでくれました。

最後に、2年生の担任の先生、桂北小学校の先生方、小学校と私たちをつないでくださった斎藤さん、本当にありがとうございました。今後も、小学生たちに森の面白さ、大切さを伝えていけたらと思います。

神宮 理沙 (Forest Nova☆)

[報告6]東海大高輪台高校 SSH報告

スーパーサイエンスハイスクール事業の一環として、森林における生態系調査を行いました。

初めてのフィールドワーク

本校のSSH講座「リベラルサイエンス(生物)」では「生物の

集団と環境」というテーマでNPO法人緑のダム北相模の宮村先生、内野先生、石村先生に講義をしていただきました。また、若柳・嵐山の森で森林調査をさせていただきました。

実際に森に入ってみると、外は晴れていたのに薄暗くひんやりと



していました。作業は植生調査、胸高直径、樹高、開空率の測定などを行いました。斜面での作業は予想以上に大変な作業でした。植生調査を行い、図鑑を使って調べましたが、種類数が多く驚きました。後日フィールドワークでの調査結果をまとめました。最後に、まとめたものをグループごとにテーマを選び考察し、発表を行いました。フィールドワークを行い、データの整理・まとめ、調べ学習と発表をすることで、事前に学習したことをより深く理解することができ、森林について新たな見方ができるようになりました。

私は中学生の時、学校の近くにある公園の森林を守る「里山の会」の作業に参加したことがあります。その時、ボランティアで一生懸命活動していた「里山の会」の人たちの思いが、今わかったような気がします。いま森林で起こっていること、森林の大切さ、そして、私たちはこれから何をしなければいけないかを考えることができました。(高1・女子)

鈴木 康恵 (東海大学附属高輪台高等学校、教諭)

【事務局からの お知らせ、お願い】

1月の小原本陣の森の定例活動は お休みです。

1月の小原本陣の森の定例活動は森のしきたり（森の神様もお正月休みです）により、行いません。ご注意ください。

新年会のお知らせ

1月の定例活動終了後に、相模湖駅前の「かどや」2階にて新年会を予定しています。参加費、参加の可否については定例活動当日のとりまとめを予定していますので、まずは1月の定例活動にご参加ください。

9月号から会報の郵送を取りやめています。継続して郵送を希望される方は以下をお読みください。

現在、会費は3千円です。最近ではNPOが増えているため、助成金の確保が難しくなっています。総会で決

まった通り、事務費低減のため、会報は当会ホームページの閲覧を原則として、従来通りの郵送をご希望の方には、郵送費（1千円）を負担して頂きます。（ご希望のない場合は郵送は致しません）

ご協力よろしくお願いたします。

木工班メンバーを募集しています

木工班では、班長見習い1名、メンバー2名を募集しています。

間伐した木材を活用し、FSC認証の森のグッズの商品化を目指しています。若柳嵐山の森の伐採現場での簡易製材、オリジナリティある製品の企画や製作に参加して下さる方を募集しています。

今まで実際に製作したものは地元の福祉協議会や駅前の飲食店に納入、活用されています。

興味がある方は事務局までご連絡ください。



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴、成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器（お椀・お箸・・・何か美味しいものを準備する）

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人

緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ポチポチと・・・。

そして、沢山の参加で森は、良くなる。（台風の日には勉強会開催。13年間、定例活動を一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人：NPO緑のダム北相模 事務局 03-3411-1636

URL：<http://www.midorinodam.jp>

E-mail：info@midorinodam.jp ●を@に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京

支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニティ